

令和4年八雲町議会第1回臨時会請願文書表

受 理 番 号	請願第3-1
件 名	令和4年度の米政策に関する請願書
受理年月日	令和3年12月20日
請願代表者 住所・氏名	北斗市本町1丁目1番21号 新函館農業協同組合 代表理事組合長 横道重人
紹介議員	三澤公雄
付託委員会	総務経済常任委員会
<p>(請願要旨)</p> <p>政府においては、現在、令和4年度農林水産予算編成に伴い、水田活用の直接支払交付金を含む米政策の見直しを行っている。北海道の各地域は昭和40年代から主食用米の生産調整に自ら取り組み、その地域の特色や気候に合った作物を選択し作付転換を行い、主食用米の需給安定と生産者の経営安定、地域の農業生産基盤の強化に努めてきた。</p> <p>今般の水田活用の直接支払交付金の急激な見直しは、主食用の需給のみならず、飼料用米や小麦、大豆、牧草等といった転換作物の需給にも影響を及ぼし、営農計画や地域農業振興計画の大きな変更も迫られるなど、水田・酪畜経営へ及ぼす影響は計り知れないだけでなく、このことにより、離農が増加し農家戸数の減少、地域の崩壊に繋がりがねない。</p> <p>また、交付金の対象とならない水田が発生することにより、今後の農地集積が進まず、耕作放棄地の増大に繋がり、安定的な食糧供給をも脅しかねない。</p> <p>よって、今後の水田活用の直接支払交付金の詳細なルール設定にあたっては、生産現場の意見にも配慮し、十分にかつ慎重な検討を行うよう要望する。</p> <p>(理由)</p> <p>現在、令和4年度農林水産予算に係る米政策については、主食用米の需給安定に向け、相当程度の作付転換が予定されている。</p> <p>しかし、今般の水田活用の直接支払交付金の急激な見直しによって、生産者の中長期的な営農計画や地域の生産基盤が大きな影響を受けることが懸念される。</p> <p>よって、地域農業振興や生産現場の意見も踏まえた運用となるよう、上記の要旨を踏まえた意見書を提出するよう請願するもの。</p>	